

2009.5.6. (中塚義実)

中村覚之助を訪ねてー日本サッカー史シンポジウム&熊野三山正式参拝報告ー

サロン2002の3月例会でもあった「サロンin熊野」については、3月25日に「先週末行われた「サロンin熊野」(このように改めます)は“最高”でした。これについては改めて報告します。」とだけ述べて、そのままにしていました。ちょうど4月例会で取り上げたので詳細な報告はそちらへ譲るとしても、概要だけはお伝えしようと、以下のようにまとめました。ご一読いただけると幸いです。

なお、添付ファイルは、牛木素吉郎さんがJFA報告用にまとめられたものです。ご査収ください。

<参加者(敬称略)>

【サロン2002会員】阿部博一 石田まどか(2009年度より入会) 牛木素吉郎 国島栄市(2009年度より入会) 中塚義実 本杉亀一

【サロン2002未会員】(人数は重複があります)

- ・茗友サッカークラブ関係 … 篠田昭八郎(東京教育大・昭31年卒)、五島祐次郎(東京教育大・昭33年卒)、森岡理右(東京教育大・昭32年卒/茗友SC会長)、山本英作(筑波大学・平成3年卒/高知学園大学)、西脇寛人(筑波大学蹴球部1年)
- ・日本サッカー史研究会関係 … 約10名
- ・ビバ!サッカー研究会関係 … 約10名
- ・地元の方々 … 中村統太郎氏ほか約60~70名

<概要(2009年3月21~22日)>

3月20日(金)

◆夜行バスにて移動(11時間の直行便)

現地へは、それぞれがさまざまな方法で向かうことになっている。私は牛木素吉郎さんお勧めの夜行バスを選択した。21:30池袋駅発。参加者は牛木さんと日本サッカー史研究会の方が2名、および茗友SCの森岡会長とおともの筑波大生、それに私。

この日は筑波大学附属高校と神奈川県立湘南高校の62回目のサッカー定期戦があり、その流れで池袋で軽く飲んだ後、バスに乗り込んだ。ギリギリまで飲んでいたので、車内での飲み物を買った。どうせサービスエリアで買えるだろうと思ったら大間違い。SAではアルコール類は売っていないことに気づいたがもう遅い…。

それでも、3列仕様でゆとりがあり、適度に揺れる夜行バスは、私にとっては快適であった。

3月21日(土)

◆午前中の充実した活動ー中村覚之助の墓参りと生家訪問

8:30頃、那智勝浦に到着。青空が透き通っている。中村統太郎氏が迎えに来てくださっていた。

まずは船に乗ってホテル浦島へ。自慢の温泉「忘帰洞」へと向かう。帰ることを忘れるほどのすばらしさということで命名されたそうだが、まったくそのとおり。時間を忘れて温泉を堪能した。

まだ時間があったので、中村覚之助の墓参り(臨濟宗了心寺)をし、生家(つまり統太郎氏のお宅)

をお訪ねすることになった。

父・利助（大正9年9月21日没、享年82歳）、兄・亀一（昭和14年2月14日没、享年74歳）の墓の手前にひとときわ高くそびえるのが覚之助の墓である。東京高等師範学校卒業後、中国へ渡り、山東省済南師範学校にて教鞭を執った覚之助は、明治39年7月9日、帰国療養中の神戸にて28歳の若さで亡くなられた。家が一軒建つぐらいの見舞金が出て、立派な墓を建てたのだという。

覚之助の生家は、墓地から歩いて10分ほど。ここは中村家の本家であり、覚之助の兄の孫である中村統太郎氏が現在の当主である。そしてこのお宅には、覚之助ゆかりのさまざまなものたちが、時代を超えて佇んでいる。

印象的だったのは、覚之助の授業ノートである。博物学のノートだろう。細胞や動植物の詳細なスケッチときめ細かなメモ書きは、「当時は誰でもこうやって学んでいたのだ」ということは理解しつつも、「すごい！」の一語に尽きる。おそらく博物学の分野にとっても貴重な資料なのではないか。

また、嘉納治五郎校長名で発行された、水泳の技量優秀という表彰状も気になった。1904年の試合ではプレーされなかった覚之助だが、文才があってリーダーシップがあるだけではなかったようだ（運動もできる！）。

◆日本サッカー史シンポジウムー中村覚之助と日本サッカーの夜明け

15：00からのセミナー会場は、那智勝浦町体育文化会館。大会議室には70名ぐらいいただろうか。地元の方々だけでなく、各地からここに集まって来たサロンの仲間や茗友SCの大先輩の姿も見える。

詳細は月例会報告に譲るが、具体的な方向性も見えた会だった。ポイントは以下のとおり。

1) 中村覚之助の業績を評価し、日本サッカー殿堂に掲額されるよう働きかけよう！

東京高師蹴球部の初代主事（いまでいう主将）として同部を実質的に創部し、日本で最初のサッカー指導書『アソシエーション・フットボール』を仲間とともに著し（1903年）、日本人による最初のサッカーの試合を横浜外人クラブ(YC&AC)と行った（1904年）ことは、もっと評価されるべきである。

2) 日本サッカー協会（JFA）のシンボルマークの由来は、日本の、熊野にあることを強調しよう！

JFAのホームページには「ボールを押さえている三本足の鳥は、中国の古典にある三足鳥と呼ばれるもので、日の神＝太陽をシンボル化したものです。日本では、神武天皇御東征のとき、八咫鳥（やたがらす）が天皇の軍隊を道案内をしたということもあり、鳥には親しみがありました。」と書かれている。これだと中国の古典が由来であるかのようだが、時代背景等を考慮すると、日本の神話に出てくる八咫鳥がもとであると考えべきであり、熊野と日本サッカーの関係をもっと強調すべきである。JFAのホームページの記載を書き直してもらう必要がある。

◆懇親会&2次会

セミナー終了後、ホテル浦島へ移動して、18：00過ぎからは懇親会。同時刻・同会場で関西独立リーグ（プロ野球）の「紀州レンジャーズ」のパーティがあった（先に決まっていたらしい）ため、地元の名士の多くはそちらに行かれたが、こちらも約50人の盛大な会であった。

終了後はおのおの温泉（館内で温泉めぐりが楽しめる！）につかった後で、中塚の部屋で2次会。約15人が入れ替わり集まり、密度の濃い話を繰り広げた。

お泊りサロン（妙な表現になっているが）はこれだからやめられない。

3月22日（日）

◆熊野三山正式参拝

前日の好天とは打って変わって朝からあいにくの大雨。けど、地元の方々が準備して下さった「熊野三山正式参拝」は、めったにできない貴重な体験の連続だった。

以下、時系列で記す（時間は予定表に記載されたもの）。

- ・8：30 ホテル浦島発。ワゴン車3台＋αの熊野三山をめぐるツアー開始！
- ・9：10～9：55 熊野那智大社正式参拝
- ・10：00～10：45 那智山青岸渡寺正式参拝
- ・11：00～11：30 那智の滝
- ・昼食
- ・13：00～13：45 熊野速玉大社正式参拝
- ・14：45～15：30 熊野本宮大社正式参拝
- ・16：30 JR新宮駅到着。解散

★当初の予定はこのような進行だったが、前日にお墓参りをされていない方が多かったため、午前の時程を詰めて、中村覚之助の墓参りに全員で出かけた。付近の補陀洛山寺（ふだらくさんじ）での補陀洛渡海（ふだらくとかい）の話は大変興味深いものだった。

★「熊野三山正式参拝」のなかみは、各神社の本殿の中で御祓いを受け、各団体の代表がそれぞれ玉串を奉納（神社の場合。お寺では焼香）するというもの。神官の祝詞の中にも各団体名が込められ、大変ありがたいものであった。各団体と代表者は次のとおり（敬称略）。

- ・筑波大学蹴球部同窓会若友サッカークラブ会長 森岡理右（代理・五島祐次郎）
- ・日本サッカー史研究会代表 牛木素吉郎
- ・ビバ！サッカー研究会代表（代理） 大森香保子
- ・サロン2002理事長 中塚義実

★参加者全員に、熊野三山のお札とお守りをいただいた。神棚に飾っておこう（神棚がない！）

◆熊野から大阪までの電車

新宮駅前の寿司屋で軽く飲み食いした後、17：58発の特急に乗り、大阪へ向かった。同行したのは牛木素吉郎さん、五島祐次郎さん（元神戸大学）、山本英作さん（高知学園大学）である。21：58大阪までの旅は、飲みながら語りながら、気がつけば4時間が過ぎていた。

五島さんとは、最寄り駅まで一緒だった。

大変密度の濃い熊野の旅であった。また訪れたい。そして多くの人に伝えたい。

以上（文責：中塚義実）